様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１３３４９

研究課題名（和文）在朝鮮日本人社会における音楽文化受容の一側面ー当時のメディア情報を手がかりにー

研究課題名（英文）An Aspect of the Reception of Musical Culture in the Japanese Society of Colonial Korea: Research Based on Contemporary Media

研究代表者
金　志善（KIM, Jiesun）

東京大学・大学院総合文化研究科・特別研究員

研究者番号：３０７２０６２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、植民地朝鮮(1910~1945)における日本人社会の音楽文化受容の一側面について『京城日報』音楽 関連記事・広告と、京城放送局の音楽プログラムを 手掛かりに明らかにするものである。研究期間全体を通して最も大きな成果と言えるのは『『京城日報』音楽関連記事・広告目録集』をまとめたことである。これにより、在朝鮮日本人による音楽活動の全体的な活動実態が解明され、音楽史・文化史において支配権力と文化性の関係性について究明し、日本・韓国の音楽史の枠組みを拡大した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　朝鮮の音楽文化の様相を『京城日報音楽関連記事・広告目録集』と京城放送局(JODK)の音楽プログ ラムを分析することで、その実態を歴史的観点から総合的に考察できた。「植民地朝鮮」という 特質を充分に理解した上で、「在朝鮮日本人社会における音楽文化受容」からみえてくる全体像を描き出し、その実態から見えてくる「日本の音楽文化」を今まであまり言及されてこなかった日本と韓国の「音楽関係史」「音楽文化史」として再構築したことは、学術的に大きな意義があると思われる。本研究を遂行する際に出版した『京城日報音楽関連記事・広告目録集』は、日韓近代音楽史の発展にも貢献できたであろう。

研究成果の概要（英文）：　This study examines one aspect of Japanese society's acceptance of music culture in colonial Korea (1910-1945), using music-related articles and advertisements in the Keijo Nippo (Gyeongseong Ilbo) and the music programs of the Keijo Broadcasting Station as a guide. The most significant achievement during the whole research period was the compilation of a “Catalogue of Music-related Articles and Advertisements in the Keijo Nippo(『京城日報』音楽関連記事・広告目録集）”. This clarified the overall status of musical activities by Japanese residents in Korea and expanded the framework of Japanese and Korean music history by investigating the relationship between ruling power and culture in music and cultural history.

研究分野：日韓近代音楽史

キーワード：植民地朝鮮　在朝鮮日本人　日本伝統芸能　京城日報　京城放送局（JODK）　音楽文化　音楽記事・広告　音楽プログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

植民地朝鮮には日本人の移住が増加したことに伴い、日本人のコミュニティーが形成されていた。朝鮮に移住した日本人の中には、朝鮮を拠点に音楽活動を行う音楽家（邦楽家も含む）が数多く存在しており、彼らは、演奏、教育、執筆活動などを行っていた。また、日本本土からも多くの音楽家による公演も実現していた。植民地朝鮮には朝鮮在来の音楽に加え、西洋音楽（クラシック）と日本音楽（邦楽）、大衆音楽（流行歌）が混在する状況が生み出されていた。日本の植民地支配を経験した韓国の音楽史を正確に理解するためには、当時の時代性に留意しつつその多様な姿を多元的に検討する必要がある。その際、植民地朝鮮における日本人社会の音楽文化の受容を知ることは、重要な手掛かりの一つであると思われる。

これまで植民地期朝鮮における日本人社会については、政治や経済関連分野が主な研究対象であり、音楽といった文化関連分野についてはあまり関心が払われていない状況である。しかし、当時の人々とかかわっていた音楽文化について知ることは、当時の人々が暮らしの中で享受していた文化の一端を把握できるとともに、近代の音楽文化の形成過程究明にもなる。

申請者は「在朝鮮日本人」と「音楽」というテーマで長年研究を続けている。2017 年 9 月、東京大学に提出した博士論文においては、韓国の西洋音楽の受容史の一側面を朝鮮で活動を行っていた日本人中等音楽教員と音楽家の活動から考察を行い、西洋音楽分野のみならず、在朝鮮における邦楽についても研究を進めている。在朝鮮における邦楽については、申請者が日本学術振興会の特別研究奨励費（平成 25 年度～27 年度）において「植民地朝鮮における邦楽の実態研究」）をもとに研究を行った。その研究では、当時朝鮮の最大新聞規模を持っており、朝鮮総督府の機関紙の役割を果たしていた『京城日報』(1906～1945) の音楽関連記事と広告に注目した。『京城日報』における音楽関連記事・広告を網羅し、日本音楽、朝鮮音楽、西洋音楽、大衆音楽にジャンルを分け、抽出作業を進め、研究の土台を作り上げた。

２．研究の目的

本研究は、植民地朝鮮 (1910～1945) における日本人社会の音楽文化受容の一側面について『京城日報』音楽関連記事・広告と、京城放送局の音楽プログラムを手掛かりに明らかにするものである。当時、在朝鮮日本人社会ではどのような音楽が、どのような方法で伝わり、どのような音楽が好まれていたのか。また、その音楽は彼らにとってどのようなものであったのかについて当時のメディア情報を分析し、音楽文化受容過程の一部を解明する。植民地朝鮮における在朝鮮日本人社会の「音楽文化受容史」という新たな側面を日韓近代音楽史の観点から明らかにし、朝鮮以外の外地での比較研究も視野に入れての研究も目指した。

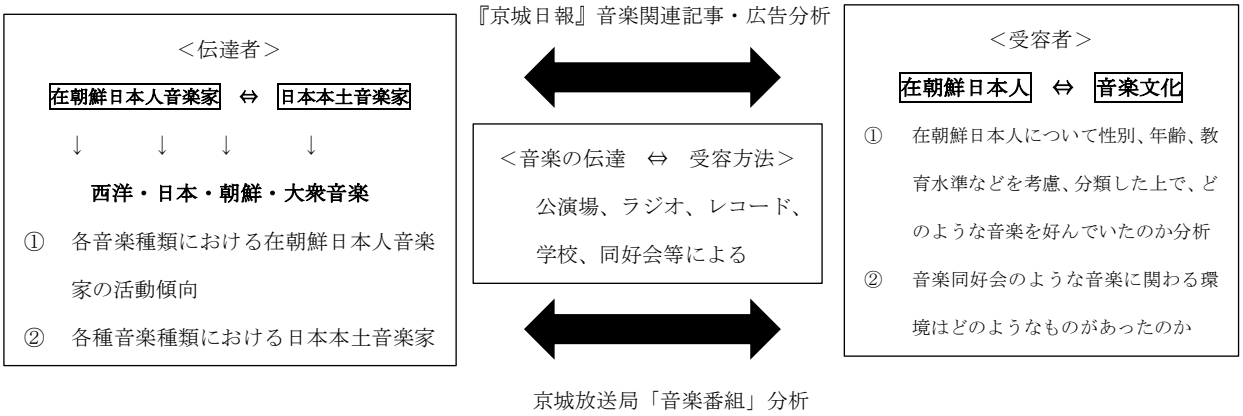
３．研究の方法

本研究の目的を達成するために、既存の研究成果である『京城日報』における音楽関連記事・広告を用いつつ、新たな資料として京城放送局の音楽番組を『京城日報』『毎日申（新）報』に掲載されたラジオ番組欄を参考に抽出・整理作業を行った。この作業は、後に『資料集』として出版を念頭に進めた。これら両新聞を基礎資料として、雑誌『三曲』『能楽』『能楽時報』『能楽

新報』など当時の日本音楽関連専門誌、『朝鮮及満州』『三千里』『時空』などの一般誌などを加え、植民地朝鮮における日本人社会の音楽文化について総合的に考察した。

第一段階では、京城放送局における音楽番組を網羅し、抽出・整理作業
第二段階では、既存の資料『京城日報』音楽関連記事・広告を用いて分析（第一段階と同時進行）
第三段階では、メディアの情報を基に「西洋音楽」「日本音楽」「朝鮮音楽」「大衆音楽」に分類し、分析。これらは、「行う側」と「受ける側」の立場からさらに分類。第四段階では、植民地朝鮮における日本人社会における音楽文化の解明とその意義について考察

＜植民地朝鮮における日本人社会における音楽文化の構造図＞



４．研究成果

本研究は、植民地朝鮮(1910～1945)における日本人社会の音楽文化受容の一側面について『京城日報』音楽 関連記事・広告と、京城放送局の音楽プログラムを 手掛かりに明らかにするものである。当時、在朝鮮日本人社会ではどのような音楽が、どのような方法で伝わり、どのような音楽が好まれていたのか、また、その音楽は彼らにとってどのようなものであったのかについて当時のメディア情報を分析し、音楽文 化受容過程の一部を解明した。

研究機関全体を通して最も大きな成果と言えるのは『『京城日報』音楽関連記事・広告目録集』の出版である。これは在朝鮮日本人における音楽関連メディア 情報として日韓近代音楽史を研究する上で一つの基盤となるものであることから、価値が高いと思われる。二つめの成果としては、京城放送局(JODK)の音楽関 連プログラムを網羅しデータ作業がかなり進んだことである。できれば、今年度中にそのデータ作業を完了し、同じく『京城放送局音楽関連プログラム目録集』として出版できるようにしたい。

これらのメディア情報関連資料を手掛かりに「在朝鮮日本人」の音楽文化受容の実態について研究期間中に行った実績としては、計 8 編の論文と、2 冊の図書出版、16 回の学会発表を行った。さらに、朝鮮の西洋音楽と在朝鮮日本人に関する単著と、朝鮮の国民音楽・厚生音楽に関する 1 冊の共著の図書が 2021 年 6 月頃に出版を予定している。

以上、これらの成果を通じて植民地朝鮮における在朝鮮日本人の音楽文化の受容実態が一部明らかになり、特に日本伝統芸能(歌舞伎、文楽、琵琶、尺八など)が高い受容があった実態を究明した。これらの研究は、2021 年度に採択された「植民大都市「京城」の音楽文化研究:土着者・植民者文化の交差に着目して」（若手(B)、21K12865)において発展させたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 金志善	４．巻 20
２．論文標題 植民地朝鮮における新聞広告と音楽ー『京城日報』音楽関連広告からみる諸事情ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東京大学韓国朝鮮文化研究	６．最初と最後の頁 87-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金志善（KIM JIesun）	４．巻 12
２．論文標題 Music Culture of the Japanese in Colonial Korea as Reflected in the Medea--Focusing on the Reception of Traditional Japanese Performing Arts--	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Bulletin of Hosen College of Childhood Education	６．最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金志善	４．巻 1
２．論文標題 植民地朝鮮の音楽教育関連図書の出版状況	５．発行年 2021年
３．雑誌名 抗日音楽国際学術会議資料集	６．最初と最後の頁 81-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金志善	４．巻 140
２．論文標題 植民地朝鮮におけるメディアと日本音楽 ―1920年代の京城放送局(JODK)音楽プログラムを手掛かりに―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 比較文化研究	６．最初と最後の頁 329-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 金志善（KIM Jiesun）	4．巻 36
2．論文標題 The Reception of Western Music within Colonial Korea-Focusing on the Actual Situation of Higher Music Education for Koreans	5．発行年 2020年
3．雑誌名 The Hallym journal of Japanese studies	6．最初と最後の頁 35-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 金志善	4．巻 19
2．論文標題 植民地朝鮮における朝鮮民謡の音楽的試論ー兼常清佐と石川義一の民謡調査を中心にー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京大学韓国朝鮮文化研究（19）	6．最初と最後の頁 85 - 114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 金志善	4．巻 32
2．論文標題 植民地朝鮮の総力戦と歌舞伎ー中村吉右衛門と市川猿之助の慰問巡業を中心にー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 翰林日本学	6．最初と最後の頁 203～230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 金志善・鹿倉由衣	4．巻 43
2．論文標題 植民地朝鮮における歌舞伎公演の実態―『京城日報』の記事を手掛かりに―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東京藝術大学音楽学部紀要	6．最初と最後の頁 45～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 KIM Jiesun
2．発表標題 Traditional Japanese Performing Arts in Colonial Korea as Reflected in the Media
3．学会等名 2021 International Colloquium “Japanese Colonialism and Music in Taiwan and Korea”（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 金志善
2．発表標題 植民地朝鮮の音楽教育関連図書の出版状況
3．学会等名 抗日音楽国際学術会議（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 金志善・金昭賢
2．発表標題 植民地朝鮮における在朝日本人と文楽 ―『京城日報』記事による1920年 の公演を中心に―
3．学会等名 東洋音楽学会第71回大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 金志善
2．発表標題 植民地朝鮮におけるメディアと音楽ー音楽関連新聞広告からみる実情を中心にー
3．学会等名 日本音楽学会東日本支部第64回定例研究会
4．発表年 2020年

１．発表者名 KIM Jiesun
２．発表標題 Japan as the Conduit of Western Music in Occupied Korea
３．学会等名 Royal Music Association 56th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における新聞広告と音楽ー『京城日報』音楽関連広告からみる諸事情ー
３．学会等名 朝鮮史研究会関東部会2020年7月例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 1920年代における京城放送局（JODK）の日本音楽プログラム
３．学会等名 東洋音楽学会第113回東日本支部例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における「俗謡」をめぐる日本人の音楽的認識ー1910～1920年代の日本語文献を手掛かりにー
３．学会等名 東洋音楽学会第70回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 京城放送局（JODK）の音楽プログラムに関する一考察―1920年代を中心とした各音楽ジャンルの分析から―
３．学会等名 韓国朝鮮文化研究会第20回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における西洋音楽の受容ー高等音楽教育をめぐる朝鮮人人材育成を中心にー
３．学会等名 東洋音楽学会東日本支部第111回定例研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における朝鮮民謡の音楽的試論‐兼常清佐と石川義一の民謡調査を中心に‐
３．学会等名 朝鮮史研究会関東部会2019年6月例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における在朝鮮日本人の音楽活動 ―中等音楽教員・音楽家の活動からみた韓国西洋音楽受容史の一側面―
３．学会等名 東洋音楽学会東日本支部第110回定例研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮の総力戦と歌舞伎―中村吉右衛門と市川猿之助の慰問巡業を中心に―
３．学会等名 東洋音楽学会東日本支部第101回定例研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 金志善・鹿倉由衣
２．発表標題 「植民地朝鮮における歌舞伎公演の実態をめぐって―『京城日報』の歌舞伎記事を手掛かりに―
３．学会等名 韓国朝鮮文化研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における日本の伝統芸能公演の一考察
３．学会等名 第12回中日音楽比較研究国際学術会議（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 金志善
２．発表標題 植民地朝鮮における歌舞伎公演の実態をめぐって―『京城日報』の歌舞伎記事を手掛かりに―
３．学会等名 韓国朝鮮文化研究会第61回研究例会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

1．著者名 金志善	4．発行年 2019年
2．出版社 民俗苑	5．総ページ数 736
3．書名 京城日報音楽関連記事・広告目録集	

1．著者名 高麗大学校グローバル日本研究院在朝日本人情報事典編纂委員会（担当:共著，範囲:音楽家、教員、邦楽家など42名担当)	4．発行年 2018年
2．出版社 ボゴサ	5．総ページ数 681
3．書名 開化期日帝強占期（1876～1945）在朝日本人情報事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関